

INFORMATION



《NEWS》

■職場体験・体験学習を実施

平成30年11月に、佐倉市内の3つの中学校(根郷・佐倉東・佐倉)の生徒たちと根郷小学校の児童たちが、当センターの仕事を体験・見学しました。古代の竪穴住居跡の発掘、縄文土器や古銭の拓本を採るなどの体験を通じて地域の歴史や考古学に関心を深めてもらうとともに、埋蔵文化財を扱う仕事を知ってもらうことができました。



《おしらせ》

■平成30年度企画展 「最新出土考古資料展」開催中

当センター考古資料展示室にて、2019年6月21日(金)まで企画展を開催しております。今回の企画展では、印西市武西千駄苅遺跡(弥生・古墳時代)、道作1号墳(古墳時代)、成田市畑ヶ田遺跡群I(古墳時代)、佐倉市江原台遺跡(縄文～平安時代)・石川神宿遺跡(古墳～平安時代)、印西市榎台第1遺跡(古墳時代)、茂原市国府関遺跡(古墳時代)のほか、保存処理を済ませた匝瑳市多古田低地遺跡(縄文時代)の丸木舟の一部を展示しています。



なお、2019年度はセンター設立35周年を記念した企画展や講演会を予定しています。詳細は、後日ホームページ等でお知らせします。

※考古資料展示室開室日時 平日10時～16時30分。

(休館日：土・日・祝祭日・年末年始)

《平成30年度 調査を行った遺跡》

〈成田市〉川栗遺跡群II(その3)(縄文・奈良時代・近世)

旧矢作牧野馬除土手(近世)

天神峰道場遺跡(旧石器・縄文時代)

宗吾二丁目遺跡(古墳・奈良・平安時代)

〈佐倉市〉城番塚遺跡(第7次)(縄文・弥生・古墳・平安時代・中世)

白井田宿内砦跡(主郭部第3次)(弥生・古墳時代・中近世)

〈四街道市〉金クソ遺跡(第2次)(縄文・平安時代)

〈印西市〉榎台第1遺跡(第5地点)(縄文・古墳・奈良・平安時代)

道作1号墳(第2次)(古墳時代)

西ノ原第3遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代)

〈柏市〉中馬場遺跡(第10次)(古墳・奈良・平安時代・中世)

花戸原遺跡(第13・14次)(古墳・奈良・平安時代・中世)

《平成30年度 整理作業を行った遺跡》

〈成田市〉畑ヶ田遺跡群I(古墳時代)

天神峰道場遺跡(旧石器・縄文時代)

〈佐倉市〉神門宿向遺跡(第3次)(縄文・奈良・平安時代・中世)他

江原台遺跡(聖隷病院第4・5次)(縄文・古墳・奈良・平安時代・中近世)

城番塚遺跡(縄文・弥生・古墳・平安時代・中世)

〈四街道市〉桜ヶ丘遺跡(第4次)(旧石器・縄文時代)他

金クソ遺跡(第1・2次)(縄文・奈良・平安時代)

〈印西市〉東遺跡(第5地点)(旧石器・縄文・古墳・奈良・平安時代・中近世)他

株木第1号墳・株木第2号墳(古墳時代)

榎台第1遺跡(第2～5地点)(縄文・古墳・奈良・平安時代)

〈栄町〉宮前遺跡(古墳・奈良・平安時代)

〈柏市〉花戸原遺跡(第3～9次)(縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代)

中馬場遺跡(第7・8次)(奈良・平安時代)

〈匝瑳市〉多古田低地遺跡(縄文時代)

〈東庄町〉青馬鷺遺跡(奈良・平安時代)

〈茂原市〉国府関遺跡(古墳時代)

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。

《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトをご利用ください。当センターの最新情報をお伝えしています。下記URLもしくはQRコードより閲覧してください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>

スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>



平成31年3月25日 千葉県佐倉市春路1-1-4 ☎043(484)0126(℡) <http://www.inba.or.jp> (スマホサイト) <http://www.inba.or.jp/sp> 〒285-0814 匝瑳市文化財センター 公益財団法人 印旛郡市文化財センター 発行・編集 フィールドブックvol.41

FIELD BOOK



東庄町 青馬鷺遺跡



写真1: 出土土器



写真2: 墨書土器「厩カ□」



写真3: 巡方



写真4: 「神功開寶」



写真5: 菊花文を有する土器

青馬鷺遺跡は、東庄町青馬字坂上1759番1に所在する遺跡です。東庄町立中学校の給食センター建設に伴い、職員駐車場や駐輪場等の周辺施設をつくるため、平成29年度に発掘調査を行いました。調査の結果、8世紀後半から9世紀中葉を主体とした、竪穴住居跡9軒や掘立柱建物跡3棟などが発見されました。調査は対象面積6,076㎡に対して、確認調査を行った後に837㎡の本調査を実施していますから、あまり遺構が密集した状態とは言えません。しかしながら、住居や掘立柱建物には拡張や建て替えの痕跡がみられ、散漫な分布とは対照的な状況を示しています。また、出土した遺物も充実しており、8世紀後半代には須恵器の水瓶や高台付盤、高盤など仏教系や官衙の様相を示す遺物が出土しています。さらに、これらの高台付盤は底部外面に墨の跡が残されていて、硯の代わりに利用していたことが分かりました。墨書も豊富で、写真1の中央部にみられる「万福」という文字や写真2の「厩」と思われる字のほか「経」、「巻」、「東」、「来」、「家」などもみられます。概ね達筆で、正しい書き順で書かれているので、書き手は識字者と思われます。また、比較的複数の文字が記されているように見受けられます。写真3は銅製の銚帯金具で巡方です。出土内容との銚帯金具から、青馬鷺遺跡には役人がいたと考えられます。写真4は皇朝十二銭のうち3番目に鑄造された古銭です。765年発行となるので、青馬鷺遺跡が営まれた時期とほぼ一致します。写真5は土師器の高台付坏の底部外面に施された菊花文です。主な分布域は東北北部から北海道南部となりますが、最近では茨城県のつくば市周辺でも集中的に出土していることが分かりました。そのなかでも河内郡家と考えられている中原遺跡でも同様の出土品がみられることから、今後は官衙施設との関連が注目されます。

以上のことから、まだ検討の余地はありますが、青馬鷺遺跡は仏教側面のほかに官衙的要素も備え、「厩」とみられる墨書からも古代の交通路に関わる「駅」としての機能が考えられます。また、本遺跡の近くの羽計清水西遺跡では「道」という墨書が、小座ふちき遺跡では「石神」、「大倉」という文字が発見されています。これは、茨城県と香取市の利根川周辺の地名を指していて、ルートに関係すると思われます。いずれにしても青馬鷺遺跡の周辺は、まだ調査の手が及んでいない場所もありますので、引き続き注目していきたい遺跡です。

佐倉市 江原台遺跡 (聖隷病院第5次)

江原台遺跡は佐倉市の北西に位置し、印旛沼の南側に広がる標高27mから31mの平坦な台地上に所在します。今回調査を行ったのは聖隷佐倉市民病院敷地内の駐車場があった場所で、面積1,567㎡の範囲です。

これまでの調査で縄文時代から中世にかけての大規模な複合遺跡であることが判明していますが、今回の調査では集落の最盛期にあったと考えられる9世紀の住居跡が8軒確認されました。



遺跡の位置 (S = 1/25,000)



調査期間前半の全景 (南東から)



調査期間後半の全景 (南東から)



墨書「中万」



5号住居跡遺物出土状況 (南東から)

住居跡から出土した遺物で特徴的なものが、^{ぼく}墨書土器と朱書土器です。土師器・須恵器に墨やペンガラで文字が書かれたもので、江原台遺跡では数種類の文字がそれぞれ別の地点にまとまって見つかっています。それらは集団名を表すと思われる、集落の中にいくつかの集団が存在して住み分けを行っていたことが想像できます。



墨書「中人」



朱書「中人」



朱書「中」

今回発掘した住居跡では「中」「中人」「中万」「中村」などの文字が見つかりました。「中人」と「中万」は離れた地点では見つからない文字なので、今回調査を行った遺跡内南西側の限られた範囲に居住空間を持っていた集団と考えられます。4号住居跡と5号住居跡はこの時代の住居跡としては比較的大型で墨書・朱書土器の出土量も多いことから、この集団の有力者の住居あるいは特別な施設であった可能性があります。

すでに遺跡内の大部分の調査を終えた江原台遺跡ですが、密度の濃い遺跡であるため、今後も調査があれば様々な発見が期待できます。文字資料についても、遺跡全体の分布状況をさらに詳しく分析することで、古代の集落のあり方について解明する重要な手掛かりとなるでしょう。